

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170502371), 法人名 (株式会社 香島コンサルタント), 事業所名 (グループホームコマクサの家 1階), 所在地 (札幌市豊平区月寒西1条2丁目1番35号), 自己評価作成日 (令和元年11月10日), 評価結果市町村受理日 (令和2年2月21日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で認知症ケアの中核的相談機関となりうる様、地域との交流を積極的に行っています。近隣の関連保育園の園児さんとは月単位で定期的な交流を行っています。理念にも謳っているとおり、入居者それぞれがその人らしく暮らしていけるように支援しております。施設に入居しても自宅にいた時のように暮らして頂く為に介護者目線にならないよう利用者様の希望を優先していきます。専門的な知識を研磨し職員の研修にも力をいれサービスの質向上を目指しております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170502371-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年1月27日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の優れている点は、まず、利用者寄り、一緒に、自立した生活を目指していることである。一日の勤務時間から介護に必要な時間を差し引き一人の利用者にどのくらいの時間関わられるかを意識し、個々の利用者の話す機会を作り、日々の会話の中からも思いや希望などを汲み取るよう心掛けている。外出では個々に外出の機会を作り、買い物、お茶飲みなど一人ひとりに合わせた支援を行っている。支援の基本を、何もできないのではなく出来るように如何に支援していくかと捉え、その人の潜在能力を引き出すよう努めている。調理のお手伝い、準備や後片付け、掃除など得意な分野を介護計画にのせ、日々意識・確認しながら支援している。2つ目に、医療との連携と重度化や終末期における対応があげられる。4つの協力医療機関と連携体制を築き、訪問診療、24時間の連携体制、看護師の配置による健康管理など適切な医療が受けられるよう支援している。重度化にあたっては、早めに医師と家族の相談を持ち方向性を共有しながら本人・家族の意向に沿った支援をしている。これまでに10例ほどの看取りを行っており、本人・家族に終の棲家としての安心感を与えている。3つ目に、地域の人との積極的な交流があげられる。町内会行事への参加、ホームの行事への地域の人や幼稚園児の来訪、保育園児との毎月の交流、職業体験で中学生を受入れている。地域の介護相談の窓口として相談にも応じており、豊かで暮らしやすい地域社会づくりに貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff performance metrics.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時理念の唱和をし業務を行う時意識して行っている	理念を目につきやすい各所に掲示し、毎日の朝礼で唱和している。理念を実践に結びつけるためさらに4つの支援方針を定め、解説文書を作成し職員の理解促進を図っている。支援時には理念を意識した取り組みと振り返りを行ってケアに反映するよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	敬老会やごみ拾い、中学生のボランティアを受け入れたりと町内会と連携し行っている	町内会の清掃や資源回収に参加するとともに敬老会には地域住民、幼稚園児が多数来訪している。近隣の保育園児との毎月の交流、中学生の職場体験の受入れ、日常の挨拶、地域の人の介護相談窓口など地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議広報誌を通じて理解を深めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者が減少傾向にあるが都度意見交換をしサービス向上に活かしている	家族、町内会、包括支援センター、近隣保育園など参加のもと定期的に開催している。事業所の状況、活動報告、今後の取り組みのほか、テーマを決めて意見交換をするなど実のある会議となるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政担当者とは訪問、連絡相談をとり情報交換を行っている	市や区の管理者会議に積極的に出席し情報収集に努めている。報告・連絡・相談にあたっては、出来る限り行政担当者のもとに足を運び信頼関係を築くよう取り組んでいる。保護課担当職員の来訪時には状況説明など密な連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束にならないケアを心がけている。身体拘束マニュアル、指針を再度見直し改定版を作っている。社内研修、委員会だけでなく、外部の研修も意欲的に参加し、多くの知識を得ようとしている	身体拘束廃止委員会を定期的に(3カ月に1回以上)開催し、マニュアル・指針の整備を行っている。職員は社内・社外研修を受講し身体拘束廃止への理解を深めるとともに、言葉による抑制についても職員同士注意を払いケアに取り組んでいる。幹線道路に面し危険防止のため玄関の施錠を行っているが、利用者が自由に出入りできるよう職員が見守り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修からも虐待につながらないように、日頃のケアに注意を行っている 研修、管理者からの指導をうけ、職員同士でも日頃の声掛け対応の仕方に気を付けている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し活用できるようにしている 研修後も質問事例をまじえて具体的な方法を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	訪問時に大まかな説明をさせて頂き、その後十分な時間を取っていただくようお願いしを納得のいく説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時や電話連絡時などで意見、要望をきき会議などで管理者に報告している	家族の来訪時には、日々の様子・支援の方向性を記録をもとに報告し、常に支援の意向も確認するよう職員に周知しており、来訪記録簿への記載、管理者へ報告し運営に反映するよう努めている。毎月のコマクサ通信には個人ごとに様子を知らせ、外食行事には家族の参加を呼び掛けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー、計画作成者が職員の意見をきき管理者に報告している。個別対応もしながら意見を十分いえる機会を設けている	毎月のユニット会議では個々の意見を出せるよう意見シートの記入を促しており、管理者も各フロアを回り意見の吸収に努めている。献立、行事などの職員による委員会を設け、職員の意見を運営に反映するとともに、年2回の個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験年数に関わらず、適正をみつけて役職につけるようにやりがいをもたせている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、フロア会議等で事例検討、研修希望者には機会を与えている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や勉強会、ケア連合会とも連携をとり同業者との交流に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	モニタリングなどで情報を共有し、個人聞き取りも行いながら、管理者やNSの意見も参考にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	希望、要望だけでなく、現状についても説明し話やすい環境作りをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が望んでいる事をききとり、生活歴もききながら望むサービスをうけられるよう聞き取りを行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、出来ない事環境等を見つめなおし、共に、一緒にをキーワードに支援している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事参加のお誘いや日常生活をこまめにつたえることで施設でのご本人の様子に関心を持ってもらえるようにしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	活動を通じて、昔の思い出など会話の中に取り入れ、過去の記憶を大切にするようにしている	家族や知人の来訪時には居間や居室で寛いで過ごしてもらい、帰りには玄関まで見送り再度の来訪を促すなど馴染みの人との繋がりを大切にしている。レクリエーションや外食の機会には、思い出の場所や公園を散策し、買い物やお茶飲みでは馴染みの店との関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話題を提供したりコミュニケーションがとりやすいよう仲介している 入居者同志の共同作業も支援にとりいれ入居者同志が自然に会話できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支障のない範囲で相談等を受ける事もある 退去時に連絡をとっていいかどうかの確認もしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中からも思いや希望などくみ取るよう心掛けている 個人的に話を聞く機会をもうけ思いをくみとるようにしている	日頃から利用者に関わる時間、話しかけを多く持つよう心掛けている。会話の中から、表情や仕草、家族からの情報などから、思いや希望などを汲み取り、ケース記録や気付きシートに記載し、職員共有のもと思いの実現に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース担当をもうけ馴染みの関係を構築しフェイスシート記入以外のことも聞けるようにしている 個人外出の場面も作っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でできる事できない事の把握につとめ、NSとも情報を共有しながら現状把握につとめている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス時には前もって職員に意見をだしてもらい、意見を多くとりいれている 状態変化があった時は家族、関係機関に再度問い合わせし見直している	本人・家族の意向や希望、医師の指導や助言、モニタリングやカンファレンスでの職員の意見やアイデアを反映し、その人の残存能力を引き出す介護計画を作成している。介護計画は6月毎に見直ししており、状況に変化のあった時はその都度見直し、現状に即したものとなるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きシートや申し送り時などに気付いた事をきき個別の支援ノートを利用し情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ対応できるようにしている 迷った時は色々な支援を行いながら本人、家族の気持ちをたいかめながらサービスの多機能化にとりくんでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事にもできるだけ参加しながら地域のなかで楽しめる生活ができるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時はかかりつけ医を選択できるようにしている 家族だけでは対応できない場面では職員が日頃の状態を説明しより良い医療をうけられるようにしている かかりつけ医以外にも状態にあわせ受診している	4か所の協力医療機関と連携し、月1~2回の訪問診療、24時間連携体制がとられている。かかりつけ医の受診には家族や職員が同行支援し、受診ノートに記録し、受診結果を共有している。また、看護師が週2~3日利用者の健康管理を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特変ほもとより、日々の様子を看護師と共有している。看護師不在時にも状態報告を行い、勤務時には看護日報で状態確認、結果、指示などを確認しながらうけている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院まで「経過、薬情報、病歴だけでなく普段の生活状況、特性などシートにて情報提供している。退院時期等こまめに病院訪問しソーシャルワーカーと相談している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より観察、かかりつけ医とはやめの相談を行い重度化した場合の対応方法、かかりつけ医の説明をうけていただくなど早めの対応を心がけている。ご家族の心情に気をくばりながら説明をおこなっている	「重度化と終末期の指針」を作成し、契約時に説明・同意を得ている。重度化した時は、早めに家族、医師、管理者の三者で話し合い、本人・家族の意向に沿った支援を行っている。職員は、これまで数多くの看取りを経験しており、ターミナル研修を受講し、利用者の重度化や看取りに対応できるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、マニュアルにそって行えるようにして職員に不安軽減に努めている。訓練を行えない時は朝礼等で再度つたえている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練にて災害に備えている。災害時のマニュアルを作成し各階に設置している。運営推進会議等で地域の方の協力を依頼し方法もお願いしている	年2回、地域の人の参加を得て昼夜想定での避難訓練を行っている。災害時マニュアルの作成、避難経路図・緊急連絡網の整備、避難場所の周知、水や食料などの備蓄を行っている。	火災による避難訓練のほか、地震訓練、水害対応訓練、備蓄を行っているが、災害に伴う停電や断水、冬場の寒さ対策などの備蓄品を再点検し、その充実を図ることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間でも注意しあいながら声掛け対応している。気付いた時にはその場で注意しあえるようにしている	利用契約書に利用者の権利として個人の尊重・プライバシー保護、尊厳維持を謳うとともに、倫理規程を制定しその実効性の確保に努めている。自尊心や羞恥心に配慮した丁寧な言葉かけに職員同士注意し合いながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	訴えや思いに対し最後まで傾聴し対応している。本人が迷われるときは選択肢も提供し思いを受け止めるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の勤務者と協力し業務を行い入居者と関わる時間を作っている。話しかけを多くし希望をききだしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、外出時化粧の促し、身だしなみ、洋服の着替えを声掛けしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人のできる事を把握し、毎食の準備、後片付けが習慣となるよう毎日支援している 調理中入居者の好みがあればメニューを変更している	旬のものを取り入れ、利用者の好みを反映したメニューを献立委員会で作成している。食材を利用者と一緒に買い出しに出掛けたり、調理で得意な分野を発揮できるよう支援している。月1回の外食、バイキング形式、出張ラーメンなど楽しい食事となるよう工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食べる量を把握し必要量を確保できるよう記録している 状態悪い時は代替え品や好みの物を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声掛け促しできない所は介助している 難しい方歯科衛生士による口腔ケアを依頼し指導を受けている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレの間隔を記録をもとに声掛け誘導を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、適切な言葉かけ、誘導でトイレでの自立排泄を支援している。おむつの使用を避け、パット、リハパン、昼夜で使い分けるなど個々の状況にあわせた適切な介護用品を選択している。羞恥心に配慮し同性介助にも応じている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にばかり頼らず、水分量の確保や運動の促しを行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否の強い入居者に対しては無理に誘うことなく、職員を替え声掛けしたり、気分転換をはかっていきながら、スムーズに入浴できる状態を情報共有している	週2回以上の入浴を基本とし、一人ひとりの希望に沿った時間、タイミングに合わせ弾力的な入浴支援をしている。体調に合わせた無理のない入浴法、安心安全のための二人介助、同性介助にも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ入居者の好きな場所で時間をすごして頂いている じっと座っている入居者にたいしては移動の声掛け、他フロア訪問等の声掛けをしている 車椅子の入居者は居室で臥床する時間ももうけている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時は薬情報書を全員で確認し、薬の内容と現在の入居者の状況を照らしあわせ薬の理解を深めている わからない事はNS、薬剤師に聞いて確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のすきな物、好きな事を生活の中に取り入れ楽しみをもって生活できるようにしている 入居時の聞き取り以外でも役割、新しい興味のある事を発見できるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出の機会を作り一人一人にあった支援を行っている 出掛けられない時は玄関前ベンチで地域の方との会話をたのしんでいる 近所のスーパーには買い物、飲食目的で出掛けていただいている	個人ごとの外出に力を入れており、買い物、喫茶、よさこい祭り見学など利用者の希望に沿った外出支援を行っている。集団での毎月の外食に合わせてドライブ、大型公園の散策などのほか、玄関前のベンチで日向ぼっこ、地域の人との会話、鉢植えの水やりなど、努めて外気に触れる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来る限りの金銭管理をして頂き、私物購入時ご本人が好きな物を買えるよう支援しているご自分で支払いができる時はして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	暑中見舞い、正月は年賀状を書いて家族に書いていただいたり、ご家族の事をおっしゃられた時は電話を掛けられるよう声掛けしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事の写真、季節ごとの飾りつけ、園児からの贈り物などを取り入れ模様替えを行っている	オール電化、エアコン、全館床暖房を設置しており、温度・湿度・日差しが快く管理されている。広い廊下を挟んでのゆったりとした居間・食堂の配置、利用者が調理に参加しやすいアイランド方式の厨房、廊下のあちこちに置かれた一休みのイス、季節の飾り、行事の写真などゆったりと寛げる居心地よい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う、気の合わない入居者同志の関係を理解しながら席替えを行ったり、座席に誘導したりして居心地よい空間作りをこころがけている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面、個々の支援内容にも配慮しできるだけ本人が居心地よく過ごせる様配置等工夫している	職員の手作りの飾り表札、入口の壁一面に貼られた行事の写真、拡大した笑顔の写真が出入りの度に自分に微笑みかけてくれる。収納スペースの大きな押し入れ、窓に沿った飾り棚、思い思いの家具を持ち込み、写真・作品・縫いぐるみなどで飾り、それぞれが居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の清掃、整理の中で安全に入居者にあわせた環境を提供している		